

## 子宮体癌登録実施要項

### 《登録・報告の原則》

治療患者の登録と報告は、毎年、前年1月1日から12月31日の間に治療を開始した患者につき、以下の原則に従って行う。

#### 1. 子宮体部に原発した癌で、組織学的に確認されたもののみを報告する。

(1) 子宮頸部と体部に同時に癌が認められ、原発部位を臨床検査あるいは術後組織検査で明確に決定できない場合は、その組織が腺癌であれば子宮体癌に、扁平上皮癌であれば子宮頸癌に分類する。

(2) 子宮体部と卵管・卵巣に同時に癌が認められ、原発部位を決定できない場合は、それぞれに登録する。

(3) 癌肉腫と癌線維腫は FIGO では報告より除外されているが、本登録ではこれを加えて報告する。

#### 2. 各機関で初回治療を行った症例を報告する。

(1) 当該年度で治療症例のない場合にもその旨を報告する。

(2) 子宮体癌に対する治療が何らかの事情で中断し、以後まったく治療しなかった症例は「不完全治療例」として報告する。

(3) 診断のみ行い、治療を行わなかった症例は報告から除外する。

(4) 試験開腹のみ行い、それ以後に子宮体癌に対する治療をまったく行わなかった症例は報告から除外する。

(5) 診断が最終的に細胞診のみによって下された場合は報告から除外する。

(6) 治療開始日は、子宮体癌治療を開始した年月日とする。

#### 3. 子宮体癌の進行期分類は、原則として手術進行期分類（日産婦1995、FIGO1988）およびUICCのTNM分類（1990）を用いる。手術を行わない子宮体癌患者については臨床進行期分類（日産婦1983、FIGO1982）およびUICCのTNM分類（1978）を適用する。

### 《オンライン報告入力要領》

#### 【登録コード】

1	新報告患者（追加したい患者）
2	既報告患者の内容変更
3	既報告患者の削除

#### 【患者 No.】

自動表示（EM20XX-から始まる番号）

#### 【年齢】

治療開始時点での満年齢を入力する。

#### 【進行期分類の選択】

1	手術進行期分類
2	臨床進行期分類
3	術前治療施行例

(1) FIGO、UICC の進行期分類は同じにすること。

(2) 術前に放射線治療や化学療法を施行した症例は「術前治療施行例」となり、進行期分類 (FIGO、TNM) は術前の臨床進行期を入力し、備考 1 欄に ypTNM として手術時所見に即して pTNM 分類を入力する。

【洗淨細胞診】

1	陽性
2	陰性
3	未施行
4	不明

【進行期分類】

1. 手術進行期分類

1) FIGO 分類

1A	Ia 期	3A	IIIa 期
1B	Ib 期	3B	IIIb 期
1C	Ic 期	3C	IIIc 期
10	I 期 (亜分類不明)	30	III 期 (亜分類不明)
2A	IIa 期	4A	IVa 期
2B	IIb 期	4B	IVb 期
20	II 期 (亜分類不明)	40	IV 期 (亜分類不明)

2) T 分類

01	Tis 期	30	T3 期
10	T1 期	31	T3a 期
11	T1a 期	32	T3b 期
12	T1b 期	33	T3c 期
13	T1c 期	40	T4 期
20	T2 期	00	T0
21	T2a 期	99	TX
22	T2b 期		

(1) 従来通り、漿膜、付属器浸潤、洗淨細胞診陽性の場合に「T3a」とする。

(2) 「T3c」は基靭帯浸潤陽性の場合のみ適用される。

3) N 分類

前半に腫大リンパ節触知の結果を、後半に組織学的検索結果を入力する。

なお、所属リンパ節の触診を行い、腫大を触知しなかった場合「X0」、触知した場合「X1」、組織学的検索結果は転移あり「R1」、転移なし「R0」と入力する。

(1) 組織学的検索を施行しなかった場合

X0	所属リンパ節 腫大 (-)
X1	所属リンパ節 腫大 (+)

(2) 組織学的検索を施行した場合

X0R0	所属リンパ節 腫大 (-) 転移 (-)
X0R1	所属リンパ節 腫大 (-) 転移 (+)
X1R0	所属リンパ節 腫大 (+) 転移 (-)
X1R1	所属リンパ節 腫大 (+) 転移 (+)

#### 4) M分類

M0	遠隔転移なし
M1	その他の遠隔転移の存在
M9	遠隔転移の判定不十分なとき

### 2. 臨床進行期分類

#### 1) FIGO 分類

1A	Ia 期
1B	Ib 期
10	I 期（亜分類不明）
20	II 期
30	III 期
4A	IVa 期
4B	IVb 期
40	IV 期（亜分類不明）

#### 2) T 分類

11	T1a 期
12	T1b 期
10	T1 期（亜分類不明）
20	T2 期
30	T3 期
40	T4 期
00	T0
01	Tis
99	TX

(1) Tis と T0 を混同しないこと。

T0：臨床所見より子宮体癌と診断したが、原発巣より組織学的な癌の診断ができないもの（組織学的検索をせずに治療を始めたものを含む）。

TX：組織学的に子宮体癌と診断したが、その進行度の判定が何らかの障害で不能なもの。

#### 3) N 分類

N の入力に際し、画像診断（超音波、CT、MRI、リンフォグラフィーなどの臨床検査）を施行しなかった症例については、腫大リンパ節の有無を加味した以下の分類細目に従って報告する。

(1) 画像診断を施行しなかった場合

X0	所属リンパ節 腫大（-）
X1	所属リンパ節 腫大（+）

(2) 画像診断を施行した場合

N0	所属リンパ節 転移（-）
N1	所属リンパ節 転移（+）

#### 4) M 分類

M0	遠隔転移なし
M1	その他の遠隔転移の存在
M9	遠隔転移の判定不十分なとき

### 3. 術前治療施行症例

FIGO 分類および TNM 分類には術前の臨床進行期を入力する。

さらに備考 2 欄に ypTNM として手術時所見に即して pTNM 分類を入力する。

**【組織診断】****1. 組織型**

10	類内膜癌	50	扁平上皮癌
11	類内膜腺癌	60	混合癌
12	腺扁平上皮癌	70	未分化癌
13	腺棘細胞癌	80	癌線維腫
20	漿液性腺癌	81	癌肉腫
30	明細胞腺癌	99	分類不能
40	粘液性腺癌		

**2. 分化度**

1	Grade 1
2	Grade 2
3	Grade 3
9	不明

**【治療開始年月日】**

癌に対する手術、化学療法、放射線療法がはじめて行われた年月日を西暦で入力する。

**【治療法】**

1	手術（リンパ節廓清を伴う）
2	手術（リンパ節廓清を伴わない）
3	腔内照射
4	体外照射
5	化学療法
6	免疫療法
7	ホルモン療法
8	その他の治療

(1) いくつかの治療を併用した場合には、主治療を先に、その他、施行した順に入力するのを原則とする。ただし、上記7つの治療法のうち、代表的なもの6つまでを入力すること。

(2) 術前治療施行例の場合は治療を行った順に入力する。

(3) 試験開腹または癌の原発巣を除去する以外の目的の手術（尿管移植、イレウス、尿瘻形成などに対する手術）は入力しない。

(4) 開腹で生検材料のみを採取し、閉腹したものは手術としない。

(5) 手術、放射線療法の補助として、化学療法、ホルモン療法、その他の治療を行ったが、その投与量が明らかに不十分とみなされる場合は治療として入力しない。

(6) 手術の選択（入力コード1および2）にあたってはリンパ節廓清を行ったか否かご確認下さい。

**【備考1】**

進行期分類の選択の項目にて「術前治療施行例」を選択した場合には ypTNM として手術時所見に即して pTNM 分類を入力する。

**【備考2】**

不完全治療、特筆すべきと考えられる事項を入力する。

## 《3年・5年予後報告入力要領》

### 【治療後の健否】

10	生存（非担癌）
11	生存（担癌）
21	子宮体癌による死亡
22	他の癌による死亡
23	癌と直接関係のない死亡
29	死因不明
99	生死不明

- (1) 治療後満3年、5年について生存か否かをを入力する。
- (2) 癌による死亡で「21」か「22」か不明のときは「21」に入れる。
- (3) 死因がはっきりしないが癌による死亡が十分疑われる症例は「21」に入れる（「29」にしない）。

### 【最終生存確認年月日】

1	（西暦年月日入力）
2	不明

- (1) 最終生存確認年月日を西暦で入力する。
- (2) 生死不明の患者はその生存を確認した最終年月日を入力する（退院後行方不明の場合は退院日となる）。

## 《進行期分類》

### 1. 手術進行期分類（日産婦 1995、FIGO1988）

0期	子宮内膜異型増殖症
I期	癌が子宮体部に限局するもの
Ia期	子宮内膜に限局するもの
Ib期	浸潤が子宮筋層 1/2 以内のもの
Ic期	浸潤が子宮筋層 1/2 を超えるもの
II期	癌が体部および頸部に及ぶもの
IIa期	頸管腺のみを侵すもの
IIb期	頸部間質浸潤のあるもの
III期	癌が子宮外に広がるが、小骨盤腔を超えていないもの、または所属リンパ節転移のあるもの
IIIa期	漿膜ならびに／あるいは付属器を侵す、ならびに／あるいは腹腔細胞診陽性のもの
IIIb期	膣転移のあるもの
IIIc期	骨盤リンパ節ならびに／あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの
IV期	癌が小骨盤腔を超えているか、明らかに膀胱または腸粘膜を侵すもの
IVa期	膀胱ならびに／あるいは腸粘膜浸潤のあるもの
IVb期	腹腔内ならびに／あるいは鼠径リンパ節転移を含む遠隔転移のあるもの

(1) 初回治療として手術がなされなかった例（放射線療法など）には、従来からの臨床進行期分類（日産婦 1983、FIGO 1982：2頁参照）および UICC の TNM 分類（1978：3頁参照）が摘要される。

(2) 各期とも腺癌の組織学的分化度により、それぞれ亜分類される。

(3) 0期は治療統計には含まれない。FIGO では0期は設定されていないが、日本産科婦人科学会では従来との整合性より0期を設定した。

(4) 所属リンパ節とは基靭帯リンパ節、仙骨リンパ節、閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、鼠径上リンパ節、外腸骨リンパ節、総腸骨リンパ節、傍大動脈リンパ節をいう。

(5) 子宮傍結合織浸潤例は IIIc 期とする。

(6) 本分類は手術後分類であるから、従来 I 期と II 期の区別に用いられてきた部位別搔爬などの所見は考慮しない。

(7) 子宮筋層の厚さは腫瘍浸潤の部位において測定することが望ましい。

<子宮体部腺癌の組織学的分化度>

すべての類内膜腺癌は腺癌成分の形態により Grade 1、2、3 に分類される。

Grade 1：充実性増殖 Solid growth の占める割合が腺癌成分の 5%以下であるもの

Grade 2：充実性増殖の占める割合が腺癌成分の 6～50%以下のもの、あるいは、充実性増殖の割合が 5%以下でも細胞異型の著しく強いもの

Grade 3：充実性増殖の占める割合が腺癌成分の 50%を超えるもの、あるいは、充実性増殖の割合が 6～50%でも細胞異型の著しく強いもの

(1) 漿液性腺癌、明細胞腺癌、扁平上皮癌は核異型により Grade を判定する。

(2) 扁平上皮への分化を伴う腺癌の Grade は腺癌成分によって判定する。

## 2. 臨床進行期分類 (日産婦 1983、FIGO1982)

0 期	子宮内膜異型増殖症、上皮内癌 / 組織所見が悪性を疑わせるが決定的でない
I 期	癌が子宮体部に局限する (子宮峡部を含む)、これを 2 群に分ける
Ia 期	子宮腔長が 8 cm 以下のもの (8 cm を含む)
Ib 期	子宮腔長が 8 cm を超えるもの
II 期	癌が体部および頸部に及ぶ
III 期	癌が子宮外に広がるが、小骨盤腔を超えていない
IV 期	癌が小骨盤腔を超えるか、明らかに膀胱または直腸の粘膜を侵す
IVa 期	膀胱、直腸、S 状結腸または小腸などの隣接臓器に拡がったもの
IVb 期	遠隔転移のあるもの

(1) すべての症例は組織診によって確認されなければならない。

(2) 組織分類や進行期の決定は、治療法の確定する前に慎重な臨床検査に基づき行うべきである。

(3) 内診に際しては、経験豊富な医師が麻酔下に行うことが望ましい。

(4) 一度決定された進行期は、いかなる状況の変化があろうとも変更してはならない。

(5) 進行期決定のために行われる検査は以下のものである。

触診、視診、部位別搔爬、子宮鏡、膀胱鏡、直腸鏡、肺及び骨の X 線検査

(6) リンパ節造影、動・静脈撮影、腹腔鏡等による検査結果は治療計画決定に使用するのには構わないが、進行期の決定に際しては、これらの結果に影響されてはならない。その理由は、これらの検査が日常的検査として行われるには至っておらず、検査結果の解釈に統一性がないからである。

(7) 組織診は部位別搔爬 (fractional curettage) によるものとし、組織型とともにその分化度を入力することが必要である。

(8) 部位別搔爬を行う場合、まず頸部から検体を採取し、次いで体部内膜の搔爬を行い、両者の材料は分けて検査することが必要である。

(9) 頸部に癌が広がっているかどうか組織学的判定に迷う場合には、同一標本中に癌と正常の頸管腺が共存しているか否かが参考となる。

(10) どちらの stage に入れるか迷う症例は、軽い方に入れなければならない。

<子宮体部腺癌の分化度>

G1：高分化型腺癌

G2：一部充実性の中分化型腺癌

G3：主に充実性または完全な未分化癌

GX：組織分化度がわからないもの

- (1) 0期は治療統計とは別にこれを集計する。なお、現在は異型増殖症、上皮内癌がこれに相当する。  
 (2) 子宮外への癌の広がりには III 期または IV 期となるが、腔や卵管・卵巢への転移は III 期に分類される。  
 (3) 胞状浮腫だけでは IV 期に分類してはならない。

### 3. TNM 分類 (UICC1990)

#### 1) T—原発腫瘍

TNM 分類      FIGO 分類

T0	-	原発腫瘍を認めないもの
Tis	0期	上皮内癌（子宮内膜異型増殖症が相当する）
T1	I期	癌が子宮体部に限局するもの
T1a	Ia期	子宮内膜に限局するもの
T1b	Ib期	浸潤が子宮筋層 1/2 以内のもの
T1c	Ic期	浸潤が子宮筋層 1/2 を超えるもの
T2	II期	癌が体部及び頸部に及ぶもの
T2a	IIa期	頸管腺のみを侵すもの
T2b	IIb期	頸部間質浸潤のあるもの
T3 ならびに/ あるいは N1	III期	癌が子宮外に広がる小骨盤腔を超えていないもの または所属リンパ節転移のあるもの
T3a	IIIa期	漿膜ならびに／あるいは付属器を侵す、 ならびに／あるいは腹腔細胞診陽性のもの
T3b	IIIb期	腔転移のあるもの
N1	IIIc期	骨盤リンパ節ならびに／あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの
T4	IVa期	膀胱ならびに／あるいは腸粘膜浸潤のあるもの
M1	IVb期	腹腔内ならびに／あるいは鼠径リンパ節転移を含む遠隔転移のあるもの
TX	-	原発腫瘍が評価できないもの

#### 2) N—所属リンパ節

所属リンパ節は、閉鎖リンパ節、内腸骨リンパ節、外腸骨リンパ節、鼠径上リンパ節、総腸骨リンパ節、仙骨リンパ節、基靭帯リンパ節及び傍大動脈リンパ節である。

N0	所属リンパ節に転移を認めない
N1	所属リンパ節に転移を認める
NX	所属リンパ節転移を判定するための最低必要な検索が行われなかったとき

#### 3) M—遠隔転移

M0	遠隔転移を認めない
M1	遠隔転移を認める
MX	遠隔転移の有無を判定するための最低必要な検索が行われなかったとき

### 4. TNM 分類 (UICC1978)

本分類を行うためには、部位別搔爬の材料による組織学的確証がなければならない。確証のない症例は区別して記録する。下記の検索は TNM 判定のために最低必要な診断法で、これが行われていない場合には TX、NX、MX の記号で示す。

T 分類：臨床的な検索、尿路撮影を含む X 線検査、膀胱鏡検査（随意）

N 分類：臨床的な検索、尿路撮影を含む X 線検査

M 分類：臨床的な検索、X 線検査

1) T-原発腫瘍

TNM 分類 FIGO 分類

Tis	0	浸潤前癌（上皮内癌）
T0	-	原発腫瘍を認めない
T1	I	体部に限局している癌
T1a	Ia	子宮腔の最奥部まで 8 cm以下
T1b	Ib	子宮腔の最奥部まで 8 cmを超える
T2	II	頸部に浸潤するが、子宮内にとどまる癌
T3	III	腔や子宮外に進展する癌だが、骨盤内にとどまるもの
T4	IVa	膀胱粘膜または直腸粘膜に浸潤した癌、または骨盤外に進展したもの 注：胞状浮腫のみでは T4 としない
M1	IVb	遠隔臓器に転移したもの
TX	-	原発腫瘍の進展を判定するための最低必要な検索が行われなかったとき

2) N-所属リンパ節

N0	所属リンパ節に転移を認めない
N1	所属リンパ節に転移を認める
NX	所属リンパ節転移を判定するための最低必要な検索が行われなかったとき

3) M-遠隔転移

M0	遠隔転移を認めない
M1	遠隔転移を認める
MX	遠隔転移の有無を判定するための最低必要な検索が行われなかったとき

5. pTNM 術後病理組織学的分類

pT、pN、pM 分類の内容については TNM 分類に準ずる。

<FIGO 分類と TNM (UICC) 分類の対応表>

1. 手術進行期分類

FIGO 分類 TNM 分類

0	Tis	N0	M0
Ia	T1a	N0	M0
Ib	T1b	N0	M0
Ic	T1c	N0	M0
IIa	T2a	N0	M0
IIb	T2b	N0	M0
IIIa	T3a	N0	M0
IIIb	T3b	N0	M0
IIIc	T1,T2,T3	N1	M0
IVa	T4	N0,N1	M0
IVb	T に関係なく	N に関係なく	M1

2. 臨床進行期分類

FIGO 分類 TNM 分類

0	Tis	N0	M0
Ia	T1a	N0	M0
Ib	T1b	N0	M0
II	T2	N0	M0
III	T3	N0	M0
	T1,T2,T3	N1	M0
IVa	T4	N0,N1	M0
IVb	T に関係なく	N に関係なく	M1